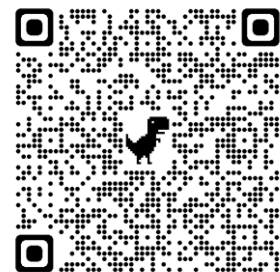


本リーフレットに掲載されている事例は、柏市の教職員からなる【1人1台端末を活用した授業改善検討委員会】のメンバーによって作成したものです。

「情報活用能力を育成する授業をデザインし、柏市全体の1歩先に行く実践研究を行い、周知を行う。」「1年研究を推進する中で、児童生徒にどのような変容があるか検証する。」という目標のもと授業計画及び実践を行い、その事例を掲載しています。指導案等の詳細は「柏市 GIGAWeb」に掲載してあります。ぜひご活用ください。



※授業の目玉や活用しているソフトウェア名については紙面の都合上、正式名称の略称で記載していることを申し添えます。

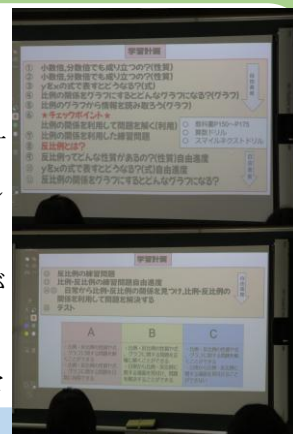
小6

算数

比例の関係をくわしく調べよう

情報活用能力の発揮  
自由進度的な学習

- 導入で身に付けたい力を児童と共有し、自身の目的をはっきりさせていく。単元計画表を参考にしながら学習を進めていき、比例・反比例の関係を式やグラフに表しながら理解を深める。
- 毎回の振り返りや、単元途中でのチェックポイントを設定し、学習の成果を児童が発揮することで教師は児童の理解を確認する。
- 学習のまとめでは学びを日常生活に置き換え、資料（Google スライドや動画）を作成する。



実践を終えて

- ・自由進度的な学習は、児童が急にできるわけではないので、4月からショートステップで取り組んできた。11月頃には単元全体を見通して学習を進められるようになった。
- ・振り返りを共有することで、児童同士で学習を進めたり、教え合ったりと、児童自身で学習の場を考えることができる手立てを講じることができた。



実践者 桑澤 淳

小6

理科

てこのはたらき

探究的な学び  
自由進度的な学習

- 実践にあたり、他教科でも自由進度的な実践を行うことで、段階的に児童に委ねる部分を増やした。
- 単元を大きく3つに分け、そのうちの小単元で自由進度的な学習を取り入れた。実験を通じた一次情報の収集、追加実験・他者参照・インターネット等の二次情報の収集。これらの力を育成し、学習形態を児童が選択しながら、より1人1人に合った学びの形を選択して理解を深めた。



実践を終えて

- ・自由進度的な学習を行ったが、児童にとってのメリットだけでなく、教師にとってもメリットがある。単元全体を見通す必要があるため、単元理解が深まり、効果的な授業につながる。
- ・また、自由進度的な学習では児童が多く情報を必要とするため、端末の活用やクラウドでの情報共有の重要性が増す。1人1台端末とクラウド環境が整備されていることで、これらの学習をより効果的に行うことができた。



実践者 小林 郁和

中1

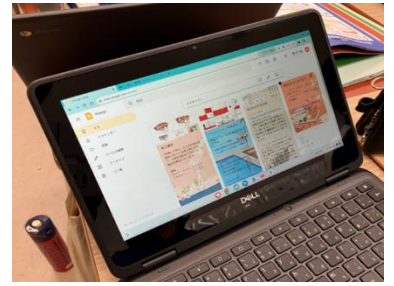
国語

「広告の情報を考える」

Canva 考えを表現

○広告の情報を分析し、言語と画像を組み合わせ、魅力的な広告を作る活動を通して、商品の詳細についての情報や、人を惹きつける言い回しとはどのような表現なのかを収集し、それを生かしたポスターを作成する。最後にはコンクールを開くことでより探究的な活動につながるようにした。

○毎時間の目標と振り返りや、作品を参観しての感想などをスプレッドシートで共有することで生徒の理解を深める一助とした。



**実践を終えて**

- ・「魅力的な広告作り」という課題を解決するために、生徒それぞれが自分に合った方法を選択することが多かったことがアンケートからも読み取れた。
- ・ここで実践した表現活動がその後の国語での単元や、社会科や美術など他教科でも見られ、生徒自らの学ぶ力の育成につながった。
- ・今回、「まとめ・表現」について実践したが、「情報の収集」や「整理・分析」する力の育成が重要だと再確認した。



実践者 安永 捷人

中1

道徳

自分の心の中の自分

コラボノート  
個別・協働学習モード

○自分の考えに自信がもてず発表に対してマイナスなイメージをもっていたり、他者の意見に流されたりしてしまうという状況を課題と捉え、打破するために1人1台端末やクラウド環境を活用した。

○意見出しはコラボノートの「個別学習モード」と「協働学習モード」を使い分けることで、他者の意見に流されるという課題を解決する活用を実践した。

○本時での活用が日常にも活かされ、自然とクラウド上での話し合いをする姿にもつながった。



**実践を終えて**

- ・道徳の授業だけではなく、他教科でも1人1台端末を活用する場面が、学年全体で見られた。
- ・生徒に取ったアンケートから自身の評価が上がったことを感じており、中でも「課題の設定」「整理・分析」の能力を伸ばすことができたと感じている。
- ・また、1人1台端末の利用について先生方の中にあるネガティブな視点を、メリットの部分に転換することで利用を促進し、生徒に「機会の提供」をすることは難しくはないと感じている。



実践者 礒崎 宏樹

**【1人1台端末を活用した授業改善検討委員会】**

〈委員長〉

柏市立大津ケ丘第一小学校 佐和 伸明

〈委員〉

柏市立柏第一小学校 桑澤 淳  
 柏市立大津ケ丘第一小学校 小林 郁和  
 柏市立柏第四中学校 安永 捷人  
 柏市立中原中学校 礒崎 宏樹

〈事務局〉

柏市教育委員会 学校教育部 指導課

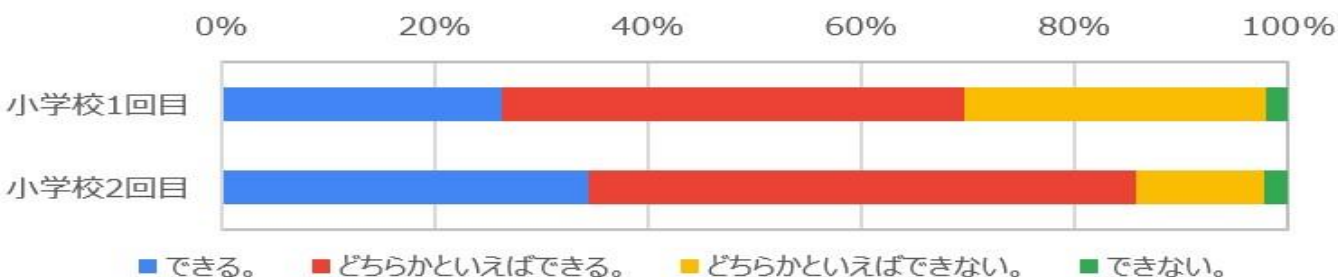
## 情報活用能力の育成・発揮, 探究的な学びの観点から (振り返りアンケート 一部抜粋)

### 小学校

課題を解決するために、自分に合った方法を選択することができる。



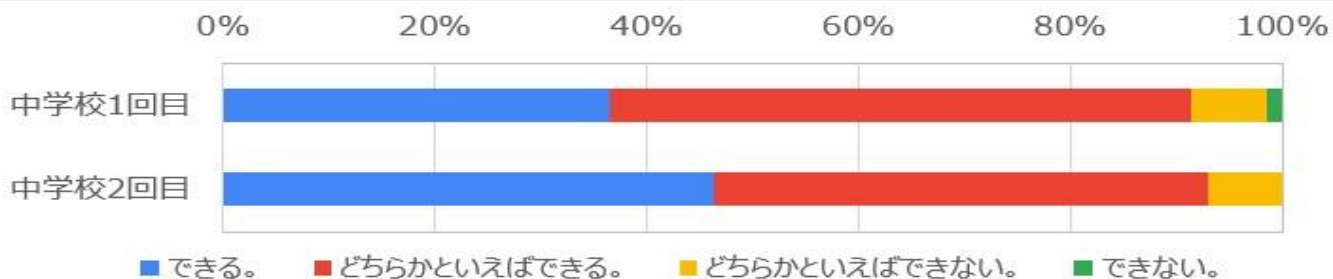
学習を進める上で、情報活用能力育成の5つのプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、振り返り・改善）を意識しながら学習を進めることができる。



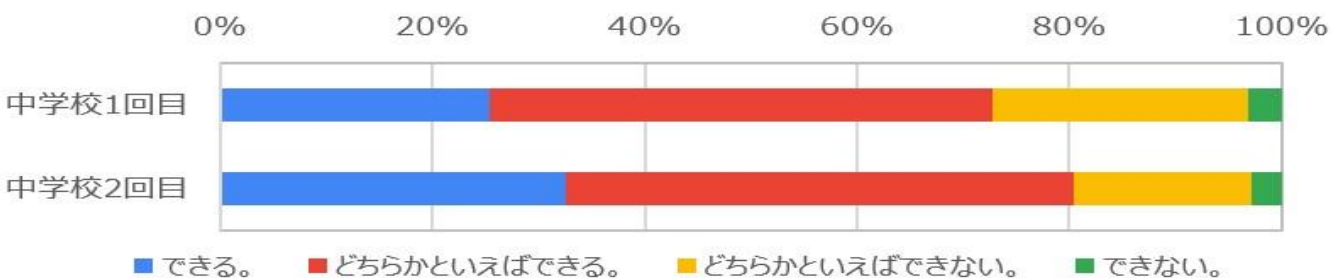
小学校の実践では、1人1台端末やクラウド環境を使って、自分のペースで学習する自由進動的な学習に取り組んだため、「学び方を学ぶ」という自己調整力が向上したことが読み取れる。

### 中学校

1人1台端末を使って、自分で立てた疑問や課題を自分で解決することができる。



言葉や思考ツールなどを使って、情報を分析したりまとめたり表現したりすることができる。



中学校の実践では、生徒1人1人が自分で課題解決をしたり、まとめたりする力が伸びており、主体的な学びや1人1台端末を活用した学び方の定着が読み取れる。